

安芸高田市 市長
石丸伸二 様

はじめまして。岩田崇と申します。
面識もなく書状をお送りする無礼を何卒お許しください。
広島ホームテレビのドキュメント番組等にて、石丸様のお取り組みとその方針である「政治再建」、
「都市開発」、「産業創出」を知り、お役に立てることがあるかと思い、本状をお送り申し上げます。

私は、これまでのコミュニケーションでは不可能である

「ひとりひとりが共通のデータやファクトを踏まえて意思表示し、水平な関係で相互参照することで、
人と人、人と行政/議会との「信頼」構築を実現するコミュニケーション」=『ポリネコ!』
を開発しております。

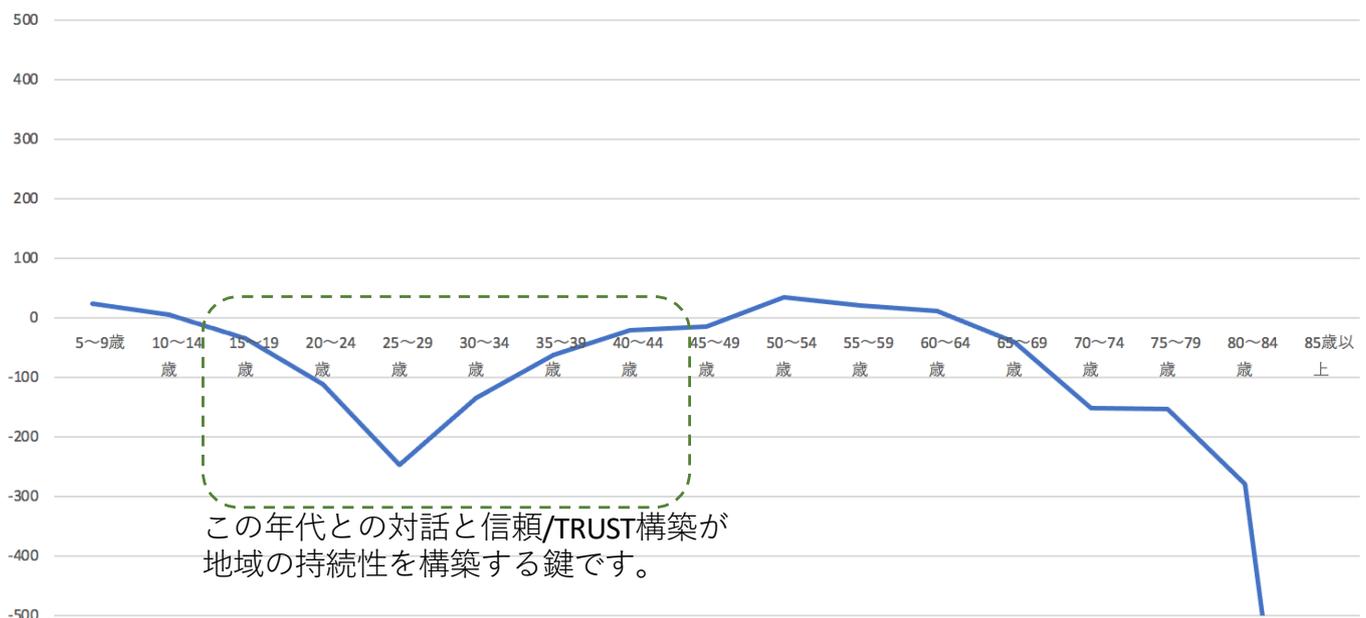
『ポリネコ!』の先行プロトタイプは栃木県のある町で中学生から80代の住民2000名と町議会の
議員12名全員が参加した「塩谷町民全員会議」により、人口流出が進む地域の戦略方針とその取り組み方
についてデータやファクトを踏まえながら意思を示しあい、その集約として「人が育つまちづくり」を
「町ぐるみで行う」という地域戦略の意思形成に成功しております。
(マニフェスト大賞 最優秀戦略コミュニケーション賞 2016)

安芸高田市様の持続的発展を考える上での最大の課題は、次世代層の社会的流出であり、この流出が
発生する構造を変えることが喫緊の課題ではないかと思われます。
次世代層の流出にブレーキを掛けるには、支出の絞り込みなどによる財政の改善以上に、地域の未来に
自分がコミットできることを実感できる体験と環境構築が有効です。

そこで提案があります。

「政治再建」のアプローチとして、安芸高田市の教育ビジョンを構築する『ポリネコ!』の実施です。
小中学生、高校生、大学生などの学びたいこと、やりたいこと、教職員の方々からは教えたことや
教授方法などをタブレットやスマホからの回答参加で把握し、それらのファクト及び、GIGAスクールや
文科省の方針などのデータをもとに、地域の発展につながるビジョンを当事者の声に基に構築、運用でき
るようになります。(『ポリネコ!』の概要は別添資料をご覧くださいませ幸いです。)

安芸高田市コーホート分析_令和3年-平成28年



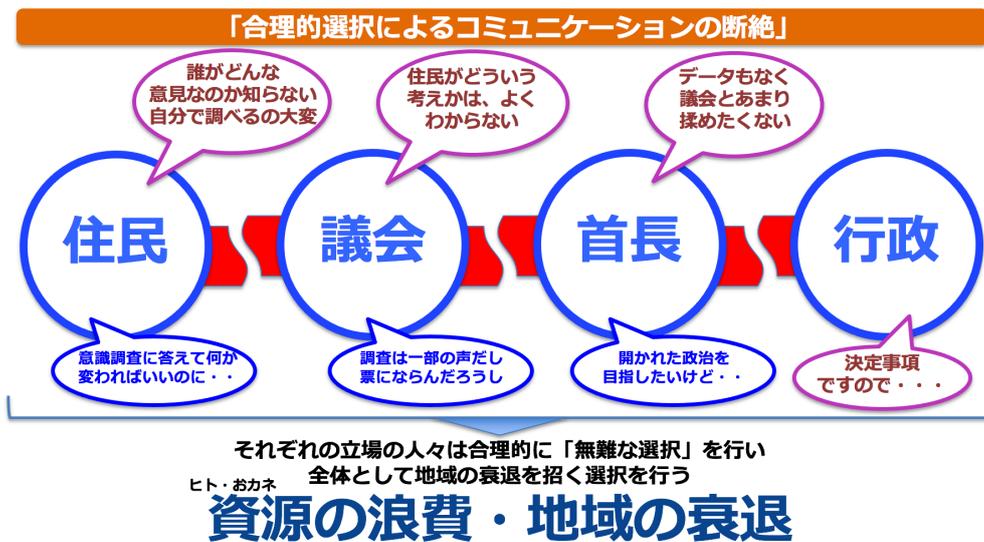
GIGAスクール構想の核は、「個別最適な学び」により、次の社会の担い手を育成する環境を実現することにあります。個別最適な学びは、児童、生徒が自身の置かれた状況を知り、学び、考え、意思表示することからのみ可能です。

しかし、その方法がないために、従来の授業にタブレットやノートPCを活用することにとどまっています。『ポリネコ!』によってGIGAスクール環境を活用しつつ、安芸高田市のこれからの構築がこれまで行政との接点が薄かった10代20代の意思を中心に可能となります。

安芸高田市のこれからの教育から構築することは、すでに行われてる公開意見交換の文脈とも合致するかと思われます。

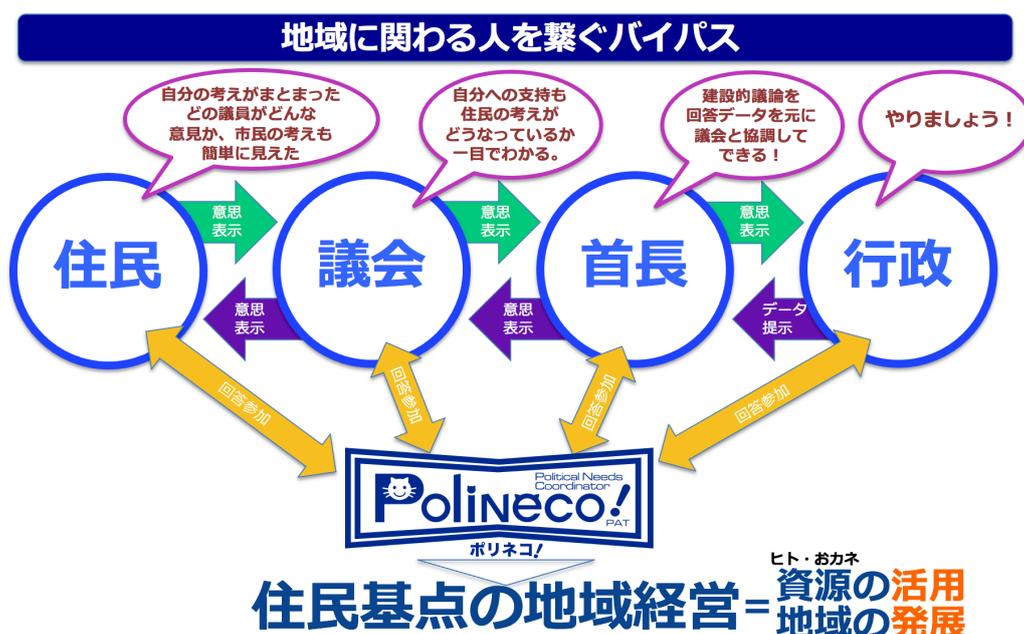
下図のように、これまでの日本の行政コミュニケーションは、それぞれの立場に居る人々が、つながることが困難であり、それ故に意味のない掟や利権が生じやすい構造にあります。

(図1)



この構造を変えるためには、コミュニケーションのバイパスが有効であり、そのバイパスとして機能するのが『ポリネコ!』です。(図2)

(図2)



多くの方が、「すでに文科省の指示通りに小中学校の運営を行う必要がない、むしろ、学習指導要綱さえ踏まえていれば、地域と連携した教育環境の構築が推奨されている」ということを知りません。こうした誤解は、対面で話せば解消できますが、100人を超えると物理的に困難となります。

『ポリネコ!』によって、この物理的限界がなくなり、いつでもどこでも地域課題に関わるデータやファクトを知り、学び、考えることができるようになります。
市役所執行部の視点に立つと、行政側の持っている情報、視点を住民に、広報誌や動画などよりも、確実に伝え、理解を向上させることができるようになります。
教育に関わることは、当事者性が強い事柄ですので、高い回答率となります。

小学生も中学生も自分のやりたいことを言語化できる機会は限られています。そうした状況に、市長が主導する形で、「あなたのやりたいことを聞かせて欲しい、それを実現できるよう応援したい」と伝えつつ尋ねると、通常の学校運営では把握できない「声」が聞こえるようになります。

こうした「声」に応える（具体的には似たことを研究したり、学びたい児童、生徒、先生が繋がれたり、関心領域の経験者を地域の内外から探し出せるようにしたり等）ことで、GIGAスクールの環境を最大限に活用しつつ、安芸高田市ならではの教育ビジョンとそれに応える環境が実現します。ビジョンに基づく学校運営、教育行政の実施は県の平川教育長の方法論にも通じると思われま

このプロセスの中で、地域の特徴や課題を知って「起業したい（パンやケーキ屋など、宿泊業など）」といった「声」も確実に出てきます。この「声」と地域課題を結びつけることで、地域に「産業創出」を新たに行うことも具体的に考えられるようになります。
起業したい、留学したいという人と地域課題が繋がれば、その起業や留学を地域が応援できるようになります。それは安芸高田市で育てて良かったという次世代層を確実に増やし、地域の持続性を確実に向上させます。

議会に対しても、地域の教育ビジョンと一緒に考え、作りましょうという提案に対して、否定することは困難と考えられます。

また、10代、20代の次世代層（10～24歳で約3300名）とその保護者と市長が直接つながるようになることで、議会も無視できない市民の声（全市民の約2割以上）を輿論（Public Opinion）として示せるようになります。

“「世界で一番住みたい」と思えるまちへ”を実現するには、いままでとは一線を画すコミュニケーションが不可欠かと存じます。一度、お話の機会をいただければ幸いです。

石丸市政による安芸高田市の発展を心より祈念しております。

株式会社 ハンマーバード代表
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
岩田崇

takashi@hammerbird.jp
090-7903-2885